# 外貨建て保険の国際金融・学部生用講義への取り込みの重要性

小川健(おがわ・たけし)　(専修大学・経済学部・准教授)*

## 概要

日本がゼロ金利政策の導入を始めて以来，低金利の時代が 20 年近く続いていて，2016(平成 28)年にはマイナス金利の導入が（ヨーロッパ中央銀行等に続いて）一部始まった。こうした低金利の中で，日本円建ての保険については運用益が充分に見込めないことから，保険金に対して保険料が高くなる状況が続いている。その中で日本円市場よりは比較的高利回りとなる外貨市場を活用して同じ価値の保険金に対し実質的な保険料を抑える手法が注目されている。しかし，保険会社が大きな為替リスクを背負いきれないことから，保険料・保険金の水準を外貨で契約する外貨建て保険に注目が集まっていて，銀行等では 2010 年代後半には投資信託に代わっての販売が行われてきた。こうした外貨建て保険は日本以外にもシンガポールを初め色々な国で行われている。

しかし，外貨建て保険には保険料・保険金共に外貨で設定して為替リスクを（保険会社ではなく）契約者が負う代わりに比較的高利回りとなる外貨市場を活用でき，同じ価値の保険金に対し保険料を比較的抑えられる仕組みであるため。為替リスクが非常に大きく影響する。この点は通常の保険論ではあまり重視されない項目であるために，一般の保険販売とは異なる知見が必要となる。また，一部の商品においては手数料のぼったくりが問題になる事案もある。それらの場合も含めて，特に銀行窓口を利用した代理販売を中心に，為替リスクに対する説明等を充分に行って契約予定者が承諾するという形ができていないままの契約トラブルが多発していて，生命保険協会が外貨建て保険の販売資格の新規創設を表明するまでの事態に至った。

外貨建て保険の取り扱いについては為替リスクに関する理解が非常に必要になる項目である反面，卒業直後の一般の新人などにも販売勧誘事案がある事から，大学在学中の教育が非常に大事になるだけでなく，その契約には 30 年以上の長期的な契約もあるだけに大きい。しかも，そこでの知見は通常の為替リスクに関する理解だけでは直ぐには判断し難い，外貨建て保険の枠組みに即した理解が必要になる反面，そこでの鉄則については最悪覚えるだけでも重要な判断指標となるだけに，直接外貨建て保険について扱う重要性は高い。為替リスクについては国際金融の学部生講義の中で扱う重要性は高い。

しかも，新型コロナ(COVID-19)の影響で外国の市場における金利引き下げなどが外貨建て保険の販売停止につながった事案もあり，そうした仕組み理解上も非常に重要となる。

そこで本報告では「明日から講義に使える」を目標に，外貨建て保険の国際金融・学部生湯抗議への取り込みを想定した報告を行う。

**キーワード：外貨建て保険，為替リスク，利回り**

* 〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田二丁目 1 番 1 号 生田 9 号館 7 階 9710 号室
(090)4255-1796　takeshi.ogawa.123@gmail.com